

第1回「協同農業普及事業に関する意見交換会」における主な御意見

1 「普及指導活動の課題と方法」関係

(1)「基本的な課題」について

- ・ スマート農業は目的ではなく手段であるとの認識も重要。
- ・ 普及指導員にはスマート農業技術に関する高い知識が求められている。
- ・ 異業種からの農業参入が増えており、事業者への栽培技術、病虫害等の基礎的な指導に対する普及センターの役割が大きくなっている。

(2)「活動方法」について

- ・ 地域や農業者の課題が多様化していることから、ガイドラインに定める重点プロジェクト計画期間は「3～5年」ではなく、「5年以内」とすることを希望。
- ・ 農業法人から相談を受けることが増え、普及指導員だけでは対応が難しいこともある。税理士等の専門家との連携が重要。
- ・ スマート農業技術は、戦略的に民間の専門家との連携していくことが重要。
- ・ 加工・流通・販売など多様な関係者との情報交換や交流が必要。コーディネート機能を強化していく仕組みが必要。
- ・ 生産と流通面における革新を総合的に支援することは重要。流通・販売・加工の人脈や情報をキャッチし、地域の課題解決に適した者とのコーディネート機能が発揮できるよう資質の維持・向上が課題。
- ・ 普及だけで解決できないことは、外の技術等を借りて解決する仕組みも必要。
- ・ 先進的農業者や農業支援サービス事業者、民間企業等の多様な者と連携強化が必要。
- ・ スペシャリスト機能だけではなく、経営・施策も含めコーディネートする機能も必要。

2 「普及指導員の配置」関係

- ・ 普及指導員の社会的な認知度が低いため、国でも普及事業の情報発信が必要。
- ・ 普及指導員の取組について、PR していく必要。

3 「普及指導員の資質の向上」関係

- ・ 中堅職員が少なく、若手職員の育成が必要。
- ・ ベテラン普及員の技術や情報の継承が課題。これまで蓄積した農業者の状況や指導活動の記録等への対応が必要。
- ・ 専門分野ごとの研修会や情報交換の場の充実を希望。
- ・ 新しいスマート農業技術を学ぶ場が必要。また、座学だけでなく実際に触ることも必要。
- ・ 企業参入等多様な担い手への対応に関して、コーディネート機能の強化が必要。
- ・ 産地づくりだけではなく、中山間地域をはじめとした地域づくりにもつながるため合意形成技術の習得は非常に重要。
- ・ 普及活動の高度化や効率化、資質向上が重要。人づくりに向けた取り組みの強化・拡充が必要。
- ・ 販売・流通に向けた指導やプロデュース・コーディネート機能は重要。多分野の関係者の間に普及員が入って、経営的な判断、産地や地域としての必要性など、普及センターとして広い視野で支援していく必要。
- ・ 地域農業振興や経営改善などについては指導力が弱い面がある。また、農家との繋がりが弱くなっている面がある。

- ・ 地域計画や関係人口の創出に当たり、多様な者と関わることのできる普及指導員の育成が重要。
- ・ コーディネート機能が非常に重要であり、知識だけではなく経験も必要。

(以上)